

1 年 A 組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 萩山 知治

1 日時（場所） 2 月 1 日（月） 11:50～12:40 （1 年 A 組教室）

2 単元設定（単元名：中世の日本）

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

- よりよい社会や自分の姿を思い描く力
- 社会の形成者としての自覚を持ち、他と協調しながら自ら進んで行動する力

(2) 単元目標

- 中世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。 「知識及び技能」
- 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 中世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 重点目標

<本質的な問い>

中世とは、どのような時代だろうか。

<永続的な理解>

中世とは、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりが見られ、諸産業の発達と都市や農村の変化、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれた時代である。また、持続可能な社会の視点から中世を捉えると、武士も民衆も「よりよい」社会を求めて知恵を出し、たくましく生き抜いた姿がある。鎌倉幕府の成立によって、武士には為政者としての能力が必要になり、弓馬の道だけでなく、文武両道を身に付けることが求められた。一方、武家社会の動揺や転換が見られた中世後半においては、庶民たちが「よりよい」生活を求めて団結し、様々な工夫を取り入れることで諸産業を発達させ、自らの地位を向上させた。古代から中世へと時代が変わり、新しい社会や文化が形成された背景には、立場は異なっても幸せに生きようとした人々の願いや苦労があったことを忘れてはならない。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。	中世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
タイムマシーンで古代の人々（平安時代の人々）が附属中学校にやって来ました。校舎が立ち並び、生徒は制服に身を包み、そして馬ではなく自転車が走っている光景に驚き、なぜこのような時代になったのか説明してほしいと言われました。そこで、附属中の1年生が中世の特色を、2年生が近世と近代を、3年生が現代を説明することになりました。中世の特色について、この時代に生きた人々の営みに着目し、A4判1枚のレポート用紙にまとめ、説明してください。あなたの力で古代の人々を納得させてあげましょう。	○観察 ○ワークシートへの記述 ○単元別テスト ○実力テスト

＜パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック＞

	知識・技能	思考・判断・表現
A	B評価の規準を満たしたうえで、中世の特色について多面的・多角的に理解することができている。	「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の四つの視点を基に、視点相互の関わりを持たせながら、この時代に生きた人々の営みに着目し、中世の特色についてより多面的・多角的な深い考察が読み取れる。
B	「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の四つの視点を基に、中世の特色を理解し、その知識を身に付けている。	「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の四つの視点を基に、複数の視点からこの時代に生きた人々の営みに着目し、中世の特色について論理的に考察し、自分の言葉で表現している。
C	中世の特色を理解することができていない。	特色の根拠にあげられている内容と結論が一致しておらず、四つの視点から中世の特色について述べていない。

(6) 指導計画（全15時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
一 次	1 ・古代における学習成果を基に、古代に見られた課題をまとめる。	知		・古代に見られた課題について考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート）
	2 ・絵画資料から情報を的確に読み取り、武士が台頭する過程をまとめる。	知		・武士団に成長する過程や武士の役割の変化を理解している。（ワークシート）
	3 ・貴族の政治との比較に着目し、鎌倉幕府が成立した背景やその支配の広まりについて考える。	思	○	・武家政治の成立を多面的・多角的に考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート）
	4 ・絵画資料から情報を的確に読み取り、鎌倉時代の武士と民衆の暮らしについてまとめる。	知 主		・鎌倉時代の武士や民衆との暮らしの違いを理解している。（ワークシート） ・鎌倉時代の武士や民衆との暮らしの違いを、主体的に追究しようとしている。（ワークシート）
	5 ・古代の文化との比較に着目し、鎌倉文化の特色をまとめる。	知		・古代との比較を基に、鎌倉時代の文化と特色を理解している。（ワークシート）
	6 ・古代における政治の動き、社会の様子、外国とのかかわり、文化の特色と比較し、中世前半の特色をまとめる。	知 主	○ ○	・古代との比較を基に、中世前半の特色を考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート） ・中世前半の特色について意欲的に意見交換し、自分の考えをよりよいものに調整しようとしている。（観察）
二 次	1 ・年表や地図を活用し、モンゴル襲来の背景や日本に与えた影響を考える。	知		・ユーラシアの変化や御恩と奉公の主従関係を基に、モンゴル襲来の背景や日本に与えた影響を理解している。（ワークシート）
	2 ・資料を活用し、室町幕府の特徴や守護大名の役割をまとめる。	思		・武家と公家の権力の推移を考察し、その結果を図や言葉で表現している。（ワークシート）
	3 ・日明貿易に着目し、室町時代の日本と東アジアとの交流の様子や意義について考察する。	知	○	・東アジア世界と日本の密接な関わりが見られ、国の政治や社会に影響を与えたことを理解している。（ワークシート）
	4 ・鎌倉時代との共通点や相違点に着目し、室町時代の農業や商工業の発達が民衆や社会に与える影響を考察する。	思 主		・鎌倉時代との比較を基に、室町時代の産業の発達について考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート） ・鎌倉時代との比較を基に、室町時代の産業の発達が民衆や社会に与えた影響を追究しようとしている。（ワークシート）
	5 ・守護大名と戦国大名の比較に着目し、応仁の乱後による社会の変動をまとめる。	知		・応仁の乱によって各地に戦乱が広まり、戦国大名の登場や下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化したことを理解している。（ワークシート）
	6 ・鎌倉時代の文化との比較や現在との結び付きに着目し、室町時代の文化の特色をまとめる。	知		・鎌倉時代の文化や現在につながる文化との比較を基に、民衆の成長と文化の形成の関係について理解している。（ワークシート）
	7 ・政治の動き、社会の様子、外国との関わり、文化の特色に着目し、古代と中世の共通点や相違点を考察する。	思 主	○ ○	・四つの視点から古代と中世を比較し、その共通点や相違点について考察している。（ワークシート） ・意欲的に意見交換し、自分の考えをよりよいものに調整しようとしている。（観察）

次	1 本時	・SDGsの視点から中世の課題を見いだしたり、よりよい近世の在り方を考察したりする。	思 主		・中世の特色を多面的・多角的に捉え、事象同士を関連付けて考察・表現している。(ワークシート) ・よりよい近世社会の在り方を考察する活動を通して、過去の歴史的事象を学ぶことの意義を実感している。(ワークシート)
	2	・パフォーマンス課題に取り組む、中世がどのような時代であるか、自分の考えをまとめる。	思 知	○ ○	・パフォーマンス評価 ・パフォーマンス評価

「重点」は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており、観点の略称は以下の通り。

知識・技能・・・「知」 思考・判断・表現・・・「思」 主体的に学習に取り組む態度・・・「主」

重点としていない観点についても、生徒の学習状況を評価し、教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒は、アンケートによると、「入学当初、持続可能な社会やSDGsについて知っていた」と回答した生徒は32名中20人であった。また、「小学校社会科の授業で、持続可能な社会やSDGsの視点から歴史的事象について考えたことがある」または「どちらかというと考えたことがある」と答えた生徒は11名であった。その一方で、「歴史の授業で学んだことは、現在や未来の社会を思い描く上で役立っている」「将来どのような場面で役に立ちそうか」という項目において、「分からない」と答えた生徒が数名いた。そこで、本単元では、過去の歴史的事象から得た学びが、未来のよりよい姿を構想する手がかりとなることに気付かせ、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養っていききたい。

(2) 単元について

12世紀から16世紀頃までの歴史を扱う。この時代は比較的短い期間の中で、政治の仕組みや社会の様子などが大きく移り変わっていったことが特色の一つであるといえる。しかし、そのような激動の時代の中で変わらなかったこともある。それは、様々な立場の人々は、それぞれの「よりよさ」を求めて生活を続けたということである。本単元では、この「よりよさ」を追究する人々の心情に着目し、中世を生きた人々が生活や社会にどのような課題意識を持ち、それを乗り越えようとしたのかを捉えさせたい。現代社会においても、人々が社会の「よりよさ」を求めて、SDGsという目標を設定し、様々な取組が行われている。このSDGsの視点から中世を捉え直すことで、時代の特色をより深く理解することができたり、中世の人々も現代に生きる私たちと同様に多くの課題の中で生きていたことを実感したりすることができるはずである。そして、過去の事象を通して、現代社会の認識を深め、これからの「よりよい」社会を実現するための視点や方法を見いだしていく手がかりを得ることにつながると考える。また、前単元とのつながりを意識して、古代の学習で行った四つの視点から中世の特色を大観することで、比較や推移などの歴史的な見方・考え方をより一層働かせた学びの深まりが期待できる。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

ア 社会的な見方・考え方を働かせる問いの精選

深い学びの実現のためには、社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的な考察、説明、議論するような学習活動を行うことが大切である。そのためには、意図的な問いの工夫が必要である。具体的には、追究の際に、比較の視点を持たせる。単元を貫く学習問題を「中世とは、どのような時代だろう」とし、単元の導入では、「古代に見られた課題は、中世ではどのようなものだろう」を設定し、古代と比較させることで、課題意識につなげる。また、中世の後半では、「室町時代は、鎌倉時代からどのように変化した時代と言えるだろう」を設定し、四つの視点（政治の動き、社会の様子、外国とのかかわり、文化の特色）に着目して、時代の変化を追究させる。このように、比較の視点を取り入れた発問をすることで、歴史的事象の意味や意義を深く理解したり、課題を主体的に追究したりする態度の育成を目指す。

イ 過去の歴史的事象を学ぶことの意義を育てる工夫

SDGsとは、2030年までに解決すべき国際社会共通の目標である。過去の積み重ねが現在であり、その先に未来が待っていることを考えると、2030年までに解決すべき課題は、過去の歴史の積み重ねの中で生じたものであると言える。つまり、各時代の特色を大観していく中で、その時代に見られる課題を追究しようとする学習を重ねることが、現実社会の課題の解決を考える際に生きて働く知識として重要になる。したがって、本実践では、近世に向けてどのような課題を克服すべきか、また、近世の社会がよりよい社会となるために必要なものは何かを考えさせることで、過去の歴史的事象を学ぶことの意義を実感させたい。その際、生徒の思考・判断を整理させるために、SDGsの視点を活用する。このような活動を通して、中世の特色を深く理解させ、現代に生きる生徒が過去を生かし、よりよい未来社会を志向する力の育成につなげたい。

4 本時の指導（14／15時間）

(1) 主題 SDGs の視点を活用し、中世の特色を捉えなおそう。

(2) ねらい

○仲間との学び合いの中で、中世の特色を多面的・多角的に考察することができる。

○ SDGs の視点から中世の課題を見いだしたり、「よりよい」近世社会の在り方を考察したりすることで、過去の歴史的事象を学ぶことの意義を実感することができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 これまでの活動と本時の活動の流れを確認する。 (全体)	5	これまでの活動と本時の授業の流れを確認しよう。 ・中世には、どのような課題があるのかな。 ・中世を SDGs の視点から見ると、何が分かるのかな。	○これまでの学習を振り返らせ、本時の学習内容を明確にさせる。
学習課題：SDGs の視点から中世を見ると、何が分かるだろう。			
2 中世の課題を見だし、近世のよりよい社会を考察する。 (一斉) ↓ (小集団)	35	○中世には、どのような課題があるのだろうか。 「よりよい」近世に向けて何をどのように改善すればよいか、考えてみよう。その際、SDGs の視点を横に置いて考えを整理してみよう。 ・武力で統一を目指すような政治や社会の仕組みは課題だと思う。貧困や飢餓、経済の停滞が生まれ、再び争いが起こるかもしれない。平和な世の中が続く社会や政治の仕組みが必要である。 ・貢物を持って使いを送る日明貿易は、平等でないと思う。いずれ支配される危険もあるため、朝貢形式をやめて対等な立場になるよう改善すべきだと思う。 ・荘園領主や守護大名からの二重支配は、農民の負担が増加し、土一揆の原因にもなった。税を納めることは必要だけど、負担が大きすぎるのは問題だと思う。働くことの幸せを感じられる範囲内での税の仕組みが必要だと思う。 ・民衆の成長によって文化が広がったけど、識字率の低さは、人々のよりよい生活や文化の広まりを制限したと思う。生活水準を上げるために、みんなが教育を受けられる制度が必要だと思う。	○中世の特色や近世の社会をより多面的・多角的に考察させるために、SDGs の視点から中世の課題を見いださせるようにする。 ◎中世の特色を多面的・多角的に捉え、事象同士を関連付けて考察・表現している。(ワークシート)
	5	○課題解決に向けて中世の人々や現代の私たちは、どのような気持ちを同様に持っていたのだろうか。 ・幸せに生きたい気持ち ・よりよい生活を送りたい ・安心して暮らしたい ・幸せが続いてほしい ・現状を変えたい	○よりよい社会の在り方を構想する際に、SDGs の視点が手がかりになり得ることに気付かせるために、ホワイトボードに事象同士のつながりを示させる。
3 本時の学びを振り返る。 (個人)	5	○ SDGs の視点から歴史を見ることで、どのような学びがあったかな。 ・中世と現代に見られる課題は違うけど、その解決に向けた当時の人々の視点や方法、よりよく生きたいという気持ちは、現代の私たちが課題を解決したり、よりよい社会を構想したりする際にも大切だと思う。	○いつの時代も、人々が課題を解決したり、よりよい社会の在り方を構想したりした背景には、よりよさを追究した人々の願いや努力があったことに気付かせるために、その心情を考えさせる。
授業研究の視点		○仲間との学び合いの中で、多面的・多角的に考察させたことは、中世の特色を理解させるのに有効であったか。 ○単元を通じた比較の視点を基に、SDGs の視点から中世の課題を見いださせる学習展開は、よりよい未来の姿を構想し、過去の歴史的事象を学ぶことの意義を実感させることにつながったか。	